

# 「鹿児島の新しい未来」 に向けて

新年、明けましておめでとうございます。

県民の皆様には、かねてから、県政の推進に多大な御支援・御協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

さて、我が国は、現在、グローバル化の急速な進展や本格的な人口減少、超高齢社会の到来など大きな変革期を迎え、これまで社会を支えていた様々なシステムが見直しを求められています。また、東日本大震災の影響をはじめ、急速な円高の進行や高止まり、欧州の政府債務危機などの影響もあり、景気や雇用情勢は依然として厳しい状況にあります。

このような中であって、私は「かごしま将来ビジョン」や「マニフェスト」に基づき、21世紀における人類の共通の課題である「環境」、「食料」、「医療・福祉」に重点を置きつつ、「持続可能性への挑戦」、「産業おこしへの挑戦」、「鹿児島おこしへの挑戦」の三つの挑戦に引き続き全力を傾注してきたところです。

特に、行財政改革については、平成16年度に451億円あった財源不足額が平成23年度において解消される見込みとなりましたが、将来にわたって持続可能な財政構造を維持・構築するために、新たに策定する「行財政運営指針」（仮称）に基づきまして、なお一層の努力を継続していく必要があると考えております。

さて、昨年は、未曾有の大災害となった東日本大震災が発生したほか、本県においても新燃岳の噴火や、奄美地方における二度にわたる豪雨災害等が発生するなど、大きな災害が続いた年でありました。

一方、明るい話題としましては、九州新幹線鹿児島ルート全線開

業や「全国都市緑化かごしまフェア」の開催があったほか、「難病相談・支援センター」の開設や鹿児島盲学校の整備・移転、ドクターヘリの運航開始などが実現した年でもありました。

新幹線の全線開業後、関西・中国・九州北部を中心に観光やビジネスで多くの方々が鹿児島を訪れ、宿泊客数も増加するなど、順調に推移し、九州新幹線全線開業効果が現れているところでもあります。

引き続き、「本物。鹿児島県」の魅力を国内外に情報発信するとともに、関係機関・団体とも連携を図りながら、全線開業効果の県内各地への波及を図り、県勢の更なる浮揚発展に結び付け、ふるさと鹿児島島の新しい未来を開いてまいりたいと考えております。

また、本年は、鹿児島空港が開港40周年を迎えます。そのような中、新たに台湾との定期路線も開設されることとなっており、東アジア地域との交流促進や海外からの誘客対策についても、一層努めてまいりたいと考えております。

今後も、子どもからお年寄りまですべての県民にとって優しくぬくもりのある社会の構築を目指して、県民の心を我が心とし、県民本位の県政の実現に取り組んでまいりる決意でありますので、引き続き、県政に御関心をお寄せいただき、県政の改革に御支援・御協力くださるようお願いいたします。

県民の皆様にとりまして、新しい年が幸多い年でありますよう心からお祈り申し上げます。



平成二十四年元旦  
鹿児島県知事 伊藤祐一郎